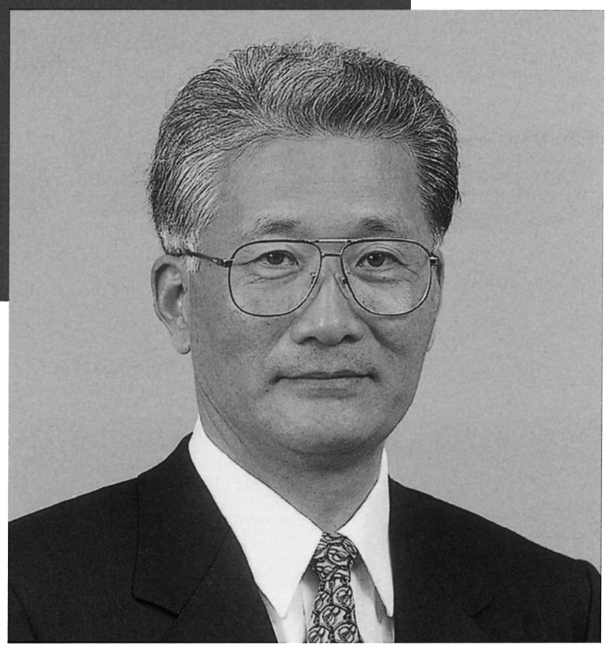
JAHFA 寄稿
JAPAN AUTOMOTIVE HALL OF FAME



向洋魂
（むかいなだだましい）

マツダ株式会社 代表取締役社長
井巻　久一

山陽本線の広島駅からひとつ大阪よりに向洋（むかいなだ）という小さな駅があります。この向洋の駅前にマツダの本社があり、本社ビルの横から工場群が展開していますが、ここがマツダの車作りの発祥の地です。故松田社長の時代からマツダの中に連綿として伝わる気概を、私は泥臭い表現ですが「向洋魂」（むかいなだだましい）と呼んでいます。マツダの、チャレンジングであるとともに負けずきらいで粘り強い精神の伝統は、泥臭い表現があっていると思うからです。あるいは私自身がスマートさより地道な粘り強さのほうを好むからかもしれません。

マツダの魂と言うとロータリーエンジン抜きには語ることができません。GMもトヨタもなしえなかった、ロータリーエンジンの実用化に向けての苦闘の物語は、既に多くのメディアに取り上げられていますので、ご存知の方も多いと思いますが、ロータリーエンジンはその後も苦難と再生の道を歩んできました。オイルショック後の燃費問題を解決してRX-7を登場させ、今また環境対策や燃費を一層改善したRENESISという新しいロータリーエンジンを搭載したRX-8を登場させることができました。この間、幾度もロータリーエンジンは消滅の危機を迎え、それをマツダ伝統の熱意と粘り強い努力とたゆまぬ知恵で乗り越えてきました。

ロータリーエンジンの工場をご覧になった方々は、一様に驚きの声を上げられます。驚きのひとつに、大変古い機械をベースにしているにもかかわらず、それを技術者と現場が一緒になって改善に取り組み、最新鋭の機械と見まがうようにまで作り上げていることがあります。数十年前からロータリーエンジンを作ってきた先人たちの知恵の継承、それに現場の知恵と匠の技を組み合わせ、新しいRENESISの生産工場として結実しているのです。これもまた、マツダの伝統のなせる技のひとつです。

ロータリーエンジンだけでなく、マツダは幾多の苦難を乗り越えてきました。それをなしえたのはマツダの中に脈々と伝わる、私が「向洋魂」と呼ぶ熱き心と粘り強さと知恵の賜だと思います。その心の伝統を、私は大切にしたいと思っています。「企業は人なり」と言いますが、熱き心をもったマツダの社員たちがいる限り、マツダはどんな苦難が待ち構えていてもそれを乗り越えてゆけると信じています。そして、未来に向かって羽ばたいてゆけると信じています。

（2003年『JAHFA No.3』収録）